

南の島のサンゴ礁

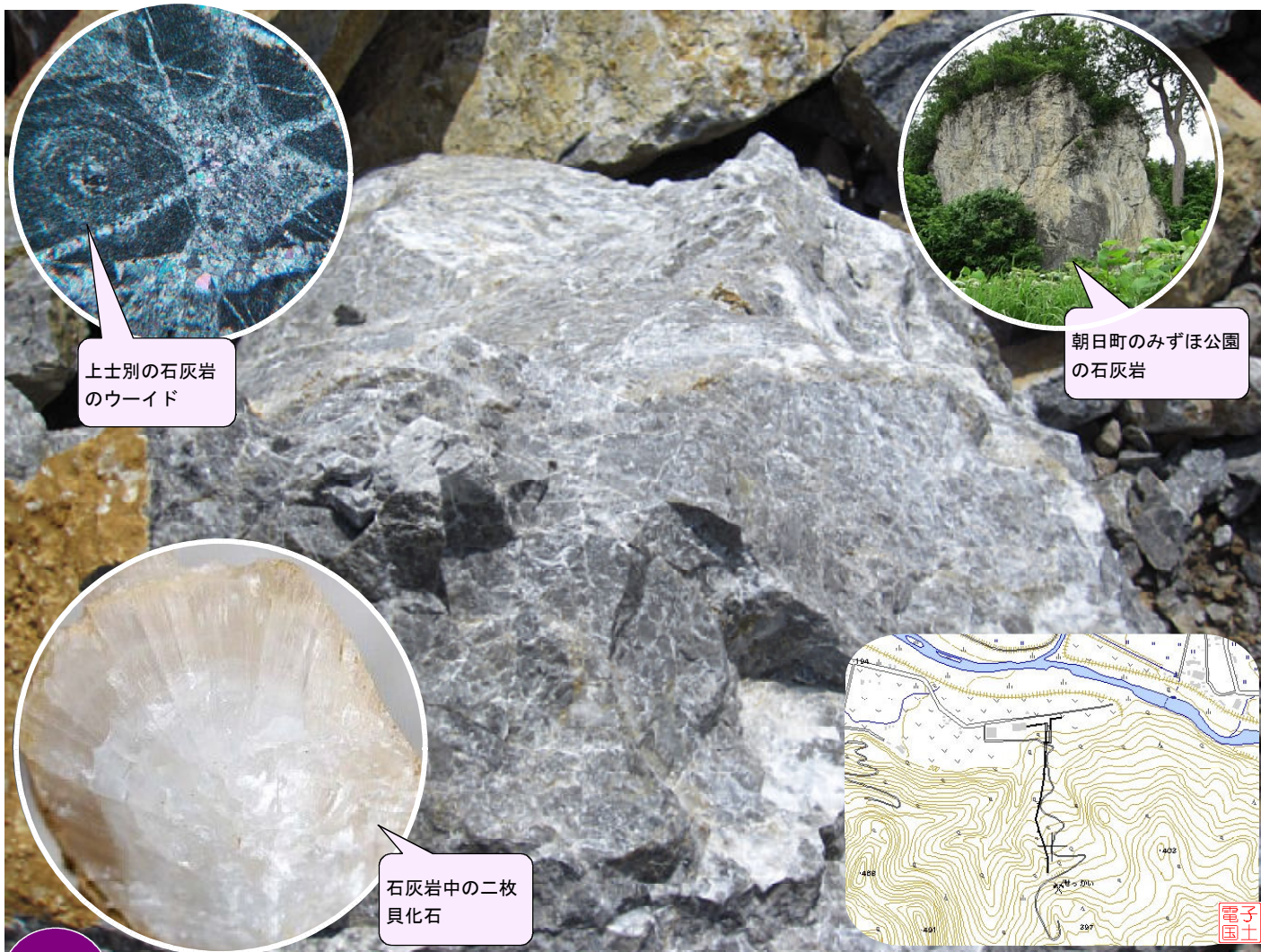
岩石名

石灰岩 Limestone
(せっかいがん)

時代 中生代白亜紀

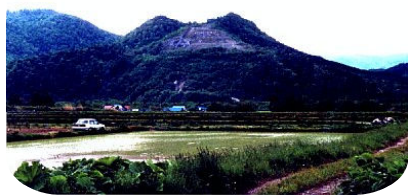
地質区分 日高層群

産出地 士別市上士別・朝日



解説 サンゴ礁の島

士別市上士別の石灰山の石灰岩です。石灰岩はサンゴ礁などを起源とした岩石で、炭酸カルシウムが固まったものです。暖かい海の島で成長したサンゴ礁が海洋プレートの動きとともに移動し、海溝付近で海山が沈み込みきれずに付加した「メランジ」と考えられます。メランジとは、いろいろな種類の石が、プレート境界付近で複雑に入り混じったもので、メランジは、フランス語で「混合」という意味です（お菓子のメレンゲと同じ語源です）。

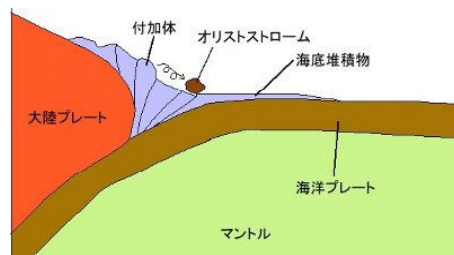


上士別の石灰山

上士別や朝日にはいくつかのこのような石灰岩体があります。この石灰岩を磨くと、1 mm 程度の小球がたくさん入っていることがあります。小球の内部は同心円状の構造となっており、「ウーイド (ooids)」と呼ばれるものです。ウーイドは「波の化石」とでもいふべきもので、波打ち際で、サンゴ起源の石灰質の泥が、波にゆられてコロコロ、コロコロと転がり、小さな雪だるまのようなものなのです。1 億年前ののんびりした風景を想像してみてください。

古代の大地震？

上士別の石灰山は、古代の海山に付着成長していたサンゴ礁だったものです。この古代の海山は海溝のヘリに付加していましたが、1 億年前に発生した巨大な地震によって海溝壁が崩壊して、そのころ堆積していた深海底の泥の中に落ちてきたのです。大変に壮大な話です。士別市朝日にある石灰岩は、このときに深海底で巨大な石灰岩が割れた破片の一部です。このように、超巨大な岩石のかたまりが海溝壁から落ちてきて、下にあった地層に取り込まれた岩石のことを、「オリストストローム」といいます（上図）。



調べてみよう

- 石灰岩を食酢に入れて発泡の様子を観察しよう。
- 石灰岩を研磨してウーイドを見つけよう。